



酒米水分計ライスタf4 取扱説明書

このたびは、酒米水分計ライスタ f4 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本器は、簡単な操作で酒米の水分測定を行うことができます。正確な水分測定のためには、正しい操作が必要となります。また、年1回程度を目安に定期点検を受けられることを推奨します。使用に当たっては、この取扱説明書を十分にお読みいただきたく、お願い申し上げます。

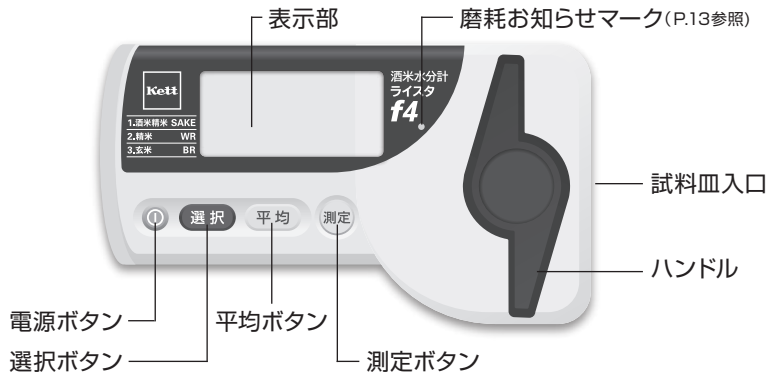
一部ライスタ f の写真を使用して説明しています。

セットの内容.....	2
各部の名称.....	3
表示部の説明.....	4
電池の入れ方	6
測定方法.....	8
平均水分の求め方	15
保管方法.....	16
従来器との互換性.....	17
仕 様.....	18

セットの内容



各部の名称



表示部の説明

本器はオートパワーオフ機能を採用しています。電源を入れた後、何も操作しないと、約5分後に自動的に電源が切れます。

また、表示部にバックライトを採用しているので、暗い場所でもはっきりと表示を読み取れます。



特殊マークの意味 表示部は次のようなマークを表示することがあります。

電池マーク  **注意** 電池が空です。新しい電池と交換してください。
(電源ボタンを押した直後および使用中に表示)

オーバーマーク  **注意** 測定した試料が測定範囲の上限を超えたとき表示します。

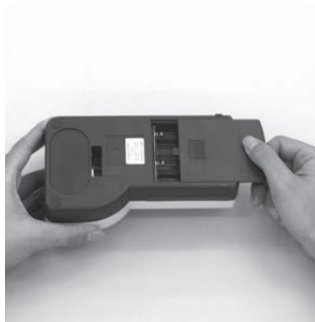
アンダーマーク  **注意** 試料の水分が9%以下で測定できないときや、試料皿と本体測定部の接触が良くないときに表示します(16ページ参照)。

メッセージコード  **001** 本器の温度が-5℃以下です。
 **002** 本器の温度が50℃以上です。
(使用温度範囲0~40℃内で 使用してください。)

- 試料皿を空で測定したときや、測定部が結露、高湿度、汚れ等によって絶縁不良を起こしているときは、オーバーマークやアンダーマーク、あるいは意味のない水分表示をすることがあります。このようなときは、測定部を掃除し、十分に自然乾燥させてください。

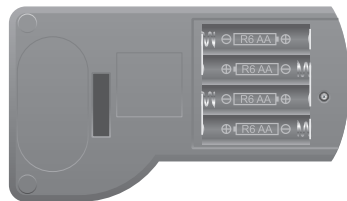
電池の入れ方

- 1 本体裏側の電池ぶたを開けます。
- 2 電池4本を正しくセットし、電池ぶたを閉めます。



お願い

- 電池が消耗すると、表示部右上に~~⊖~~ (電池マーク) が点灯します。新しい電池 (単3) を4本とも交換してください。
- 電池は使用していないときでも徐々に放電しています。常に新しい電池を使用することをおすすめします。
- 本器を長期間使用しない場合は、電池を必ず外してください。液漏れ等、故障の原因となります。



電池ボックス底面に刻印されているマークの通りに、電池のプラス・マイナスを正しく入れてください。

測定方法

■ 測定の前に

- あらかじめ本器を使用場所に置いておき、周辺の気温と器械温度の差が**2℃以内**になるまでなじませてからご使用ください。器械温度は、電源を入れた直後に全表示に続けて表示されます。本器、使用場所、試料の温度が充分になじんでいない場合、測定値に差異を生じることがあります。
- 電磁ノイズの無い環境でご使用ください。電磁ノイズにより、測定値に差異を生じることがあります。
- 急激な湿度変化による試料の吸湿、乾燥が起こらない環境でご使用ください。測定時に試料の吸湿乾燥による水分変化が起こっている場合、測定値に差異を生じます。
- 測定部や試料皿が結露している場合、あるいは汚れ等による絶縁不良が生じている場合は、測定値に差異を生じることがあります。

- 1 電源ボタンを押すと、全表示に続いて器械温度が表示されます。気温と2℃以内になじんでいることを確認します。次に「回」「%」「試料名」が表示され、測定待ちの状態になります。

● 器械温度の表示

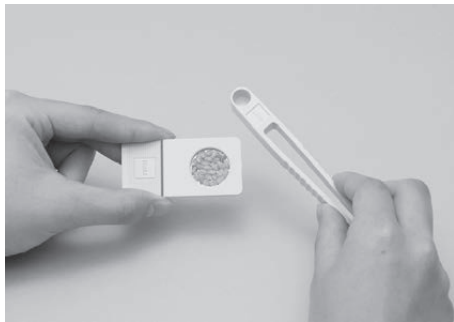


- 2 選択ボタンは押すたびに、1.SAKE (酒米精米)→2.WR (精米)→3.BR (玄米)→…と順次切り替わります。測定したい試料の項目で止めます。一度選択した項目は、電源を切っても記憶しています。



測定方法

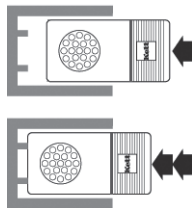
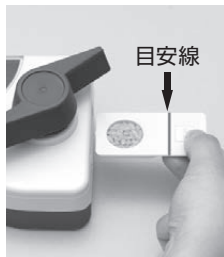
- 3** ピンセット付きスプーンを使って、試料を試料皿に、ちょうどひとならびになるように採ります。



注：試料皿に採った試料に、未熟な粒（青未熟粒、死米、異種穀粒等）が混ざっていると、測定誤差を生じる原因になります。これらの粒はピンセットで取り除き、その分の整粒を補充してから測定してください。

- 4 ハンドルを反時計方向に回転させ、試料皿が測定部に入るようにします。試料をのせた**試料皿**を、測定部の奥まで差し入れます。試料皿は**目安線が隠れる位置**まで入れてください。

注：試料皿が目安線まで入っていないと、ハンドルの先端が試料皿のプラスチック部分を破損させる恐れがありますので、必ずしっかり差し入れてください。



▲ 目安線が隠れる位置

良い例

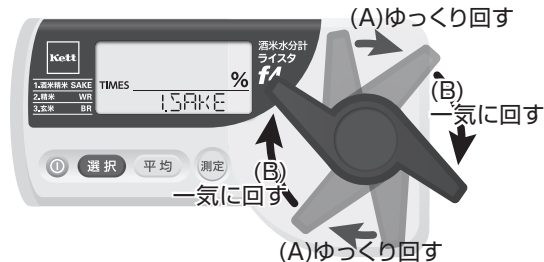


悪い例



測定方法

- 5** ハンドルを時計回転方向へゆっくり回すと、ハンドルの先端が試料に当たるのがわかります(A)。そこからハンドルをしっかり持ち、止まるところまで一気に締め込みます(B)。



- 6** 測定ボタンを押すと小数点が点滅し、その後バックライトが点灯し、**水分と測定回数が表示**されます。バックライトは4秒間で消えますが、水分はそのまま表示され続けます。5分を経過すると、自動的に電源が切れ、表示も消えます。表示中に電源ボタンを押すと、手動で電源を切ることができます。



7 連続して測定するときは、前回の測定値を表示している間に、次の測定を行ってください。

試料を入れ替えて、一気にハンドルを回し、測定ボタンを押します。

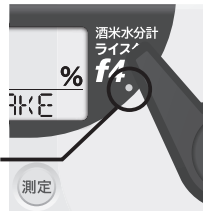
前回の測定値が消え、新しい測定値を表示します。このとき測定回数の表示も変化します。



■ 磨耗お知らせマークについて

本モデルより、磨耗お知らせマーク(赤色●)が付きしました。通常、ハンドルを止まる位置まで締め込んだとき、磨耗お知らせマークはハンドルの陰に隠れます。ハンドルが磨耗してきますと、ハンドルを止まる位置まで締め込んだときに、磨耗お知らせマークがハンドルの陰に隠れなくなります。このような状態になりましたら、すみやかに点検を受けていただくことをおすすめします。

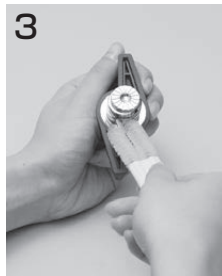
ハンドルを締め込んだときに赤色●が隠れなくなったら注意！



測定方法

- 8** 測定のつど、試料皿の入る部分と試料皿を掃除してください(写真1、2)。前回の試料が残っていると、正しい測定ができません。

また、連続して測定するときは、ハンドルを外して、ハンドル先端部や接触部に付着した試料やゴミを取り除いてください(写真3、4)。



平均水分の求め方

何回か測定した後で**平均ボタン**を押すと、測定した水分の平均値を求めることができます。測定回数2～9回までの**平均値**を、**AVG.**の文字と**回数**とともに表示します。



注1：水分の平均値を求めるときは、測定後5分以内に**平均ボタン**を押してください。

前回の測定値の表示が消えると、平均の機能は使えません。

なお、次のようなときには、初期状態に戻ります。

- 電源が切れたとき。
- 選択ボタンを押したとき。
- 平均ボタンを押したとき。
- 連続測定が9回を過ぎたとき。

注2：平均値の表示中は、**AVG.**の文字を表示します。

保管方法

本器を長期間保管する場合には、次のことを守ってください。

- 電池は必ず外してください。
- 本体各部をていねいに掃除してください。特に測定部はハンドルを外し、内部の接触部分をよく掃除してください。
- 本器は、付属品とともに、必ずソフトケースに入れ、直射日光の当たらない涼しい場所に保管してください。



ライスタ型の水分計は、発売時期の順にライスタD型・L型・E型・J型・m型などがあります。これらの部品や付属品の中には、そのままライスタf2型で使えるものもありますが、まったく使えないものがあります。

- **ライスタf4**に、D・L・J・mの試料皿は使えますが、**Eの試料皿は使えません。**

仕 様

測定対象・範囲：1. 酒米精米 SAKE 8.0～18.0%

2. 精 米 WR 11.0～20.0%

3. 玄 米 BR 11.0～20.0%

測 定 精 度：乾燥法に対する標準誤差で0.5%以下(水分20%未満の全試料)
電磁ノイズの無い状態^{*1}

表 示 方 式：デジタル(バックライト付きLCD、最小表示桁0.1%)

使用温湿度範囲：0～40℃ /85% RH以下(結露なきこと)

温 度 補 正：サーミスタによる自動温度補正

穀 温 補 正：マイコンによる自動穀温補正(適用は20%以下)

電 源：1.5V(単3電池)4本(オートパワーオフ機能、5分)、消費電力：最大0.3W

寸 法 ・ 質 量：164(W)×94(D)×64.5(H) mm、約452g

付 属 品：試料皿×2、掃除用ブラシ、ピンセット付スプーン、キャリングケース、電池(単3)×4、
取扱説明書

^{*1} 放射無線電波電磁界イミュニティ試験(EN6100-4-3)

試験レベル3V/m：80MHz～1GHz、1V/m：2～2.7GHzにおいて、電磁ノイズにより発生する影響誤差が0.5%以内であることを確認しています。

製品の保証とアフターサービス

■ 保証書

本製品には保証書が付属しております。保証書は当社がお客さまに、記載する保証期間内において記載する条件内での無償サービスをお約束するものです。記載内容をご確認のうえ、大切に保管してください。

■ 検査合格証

当社製造の全器に対して、当社規定の検査を実施しております。検査に合格した器体にのみ検査合格証を発行し、販売しております。本器に付属されていることをご確認ください。

■ 校正証明書

当社の製品は ISO9001 品質マネジメントシステムに準拠し製造されております。お客さまのご要望により、校正証明書の発行が可能です。ただし、製品の種類、状態によっては不可能な場合があります。本製品の校正証明書発行については、お求めになった販売店、または当社へお問い合わせください。

■ 損害に対する責任

本製品（内蔵するソフトウェア、データを含む）の使用、または使用不可能により、お客さまに生じた損害（利益損失、物的損失、業務停止、情報損失など、あらゆる有形無形の損失）について、当社は一切の責任を負わないものとします。

■ 定期点検

本製品の性能を確認し維持するために、定期的な点検を受けられることを推奨いたします。製品の使用頻度によりますが、年 1 回程度を目安とすると良いでしょう。点検は本製品をお求めになった販売店、または当社へお問い合わせください。

■ 修理

動作に不具合が生じた際は、電源、入出力の接続、本書記載の操作・関連事項を再度お確かめください。それでもなお改善されないときは修理のご案内をいたしますので、本製品をお求めになった販売店、または当社へご連絡ください。

ご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断転載することを固く禁じます。
- 本書の内容につきましては、将来予告なく変更することがあります。
- 本書に掲載されている製品および付属品の外観・画面等は、実際と異なる場合がありますが、操作・機能には影響ありません。
- 本書の内容につきましては、万全を期して作成しておりますが、ご不明点や誤り、記載漏れ等お気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。
- 本書を運用した結果の影響につきましては、上項に関わらず、責任を負いかねますのでご了承ください。



株式会社ケット科学研究所

✉ sales@kett.co.jp
🌐 <http://www.kett.co.jp/>

東京本社	〒143-8507 東京都大田区南馬込1-8-1	☎ 03-3776-1111	☎ 03-3772-3001
大阪支店	〒533-0033 大阪市東淀川区東中島4-4-10	☎ 06-6323-4581	☎ 06-6323-4585
札幌営業所	〒063-0841 札幌市西区八軒一条西3-1-1	☎ 011-611-9441	☎ 011-631-9866
仙台営業所	〒980-0802 仙台市青葉区二日町2-15 二日町鹿島ビル	☎ 022-215-6806	☎ 022-215-6809
名古屋営業所	〒450-0002 名古屋市中村区名駅5-6-18 伊原ビル	☎ 052-551-2629	☎ 052-561-5677
九州営業所	〒841-0035 佐賀県鳥栖市東町1-1020-2	☎ 0942-84-9011	☎ 0942-84-9012